



平成20年4月18日(金)発行  
中川町教育委員会エコミュージアムセンター  
電話 01656-8-5133  
ファックス 01656-8-5134  
ホームページ <http://city.hokkai.or.jp/~kubinaga>  
メール [kubinaga@hokkai.or.jp](mailto:kubinaga@hokkai.or.jp)

## ゴールデンウィークはエコで! 「化石アイテムをつくらう!」

~ゴールデンウィーク特別事業~

化石の研究をしている学者たちは、石の中から化石をさがしたり、見つかった化石から生きていたときの姿や色を想像したりして、大昔の生き物たちの歴史やナゾにせまります。たくさんの化石に囲まれながら、大昔の生き物を想像して、博物館でのひとときを過ごしてみませんか?

とき 5月3日(土・祝)~6日(火・振) 9:30~16:30

ところ 自然誌博物館特別展示室

- メニュー
- ★化石消しゴムをつくらう (200円)
  - ★化石宝石コハクをみがこう (500円)
  - ★石こうレプリカマグネットをつくらう (300円)
  - ★化石イラストカードをつくらう (無料)

受付 各メニューとも会場で随時受付します



今年は新メニューとして「化石消しゴムづくり」(写真;松田作)を取り入れました。みんなもチャレンジしてみよう!

運営協力ボランティア「エコール咲く」の「エコールショップ」では、新しい商品もたくさんそろえているので、のぞいて見てね。



# たくさんの人びとが集ったエコミュージアムセンター ～平成19年度利用実績報告～

エコミュージアムセンターには博物館の見学のほか、小中学校の宿泊研修や日帰り研修などで多くの人びとが訪れています。

博物館の観覧者数は4,421人で昨年度よりも3%以上伸びています。エコミュージアムセンターから各学校などへ出向いて行う出前講座では、8団体184人（昨年度比51%増）の学習のお手伝いをしました。

宿泊研修の受入では、定番となっている近隣小中高のほか、東京都世田谷区と旭川市からの宿泊利用がありました（表1；昨年度比16%減）。エコール咲くの皆さんには調理や清掃などでご協力いただき、また、地域講師の皆さんには地層観察やそば打ちといった研修メニューで活躍していただいています。日帰り研修では、北海道新聞のポケットブックでエコミュージアムセンターが紹介されたこともあり、職場や家族の団体での利用が増えました、小学校の修学旅行でも利用されています（表2；昨年度比1%増）。

表1 宿泊研修

団体名	人数
利尻町立杵形中学校バレー少年団	11
天塩町立天塩中学校2年生	30
遠別町立遠別中学校2年生	31
駒場東邦中高等学校地学部	26
旭川市科学館化石発掘ツアー	24
美深町立美深小学校5年生	55
遠別町立遠別小学校5年生	32
北海道稚内高等学校定時制課程1年生	18
合計（8団体）	227



駒場東邦中高等学校地学部；本物の自然をステージとした最高の野外授業になったことでしょう。



中川町幼児センターハッカ刈り取り体験  
ハッカのいい香りの体験できました。

表2 日帰り研修

団体名	人数
北海道豊富高等学校1年生	37
豊富町教育研究会理科班	5
上川管内教員初任者研修	4
酒井F研修	7
紋別市立紋別小学校修学旅行	34
士別市つくも大学	26
罫水・千葉F研修	15
上川農業試験場天北支場	14
中川1区町内会子ども会	12
幌延町立幌延中学校1年生	16
中外製薬札幌支店	11
中頓別町立小頓別中学校1年生	2
豊富町小学校4校交流学习	21
稚内市立稚内東小学校5年生	73
中川町幼児センター	34
中川町立中央小学校全校児童	63
音威子府村立音威子府小学校6年生	15
中川町立中央小学校6年生	12
天塩町立天塩保育所	25
上川教育研究会	60
名寄市北国博物館「小さな自然観察クラブ」	25
鍛冶川F研修	13
中川町職員労働組合	14
合計（23団体）	538



上川管内教員初任者研修；先生の研修もエコで行っています。

視察や施設の利用では、32団体472人が訪れました（昨年度比53%増）。特に、イカやタコ・アンモナイトを研究する全世界の研究者が集った国際頭足類シンポジウム中川巡検の参加者や、北海道大学で行われた日本地質学会学術大会で北海道を訪れた研究者や学生が中川に立ち寄ってくれました。

普及事業は17の事業を行い、化石・森林・歴史・産業・暮らしなど、さまざまなふるさと中川の魅力に触れてもらいました（表3；昨年度比16%増）。特に、地層観察教室では参加者の抽選を行うほどの申込があり、今後も多くの参加者が見込まれます。

ゴールデンウィークには化石レプリカづくりなどの体験事業を行い、毎年新たなメニューを加えながら博物館でのひとときを過ごしてもらっています（表4；昨年度比10%増）。また、特別展では町内外のアンモナイトを多数お借りして、普段の博物館では見ることのできない貴重な化石に触れてもらうとともに、アンモナイトの銅版画を制作している福岡幸一さんの版画を多数展示して、化石芸術を楽しんでいただきました（表4；昨年度同時期比10%増）。

今年度も宿泊や日帰り研修での予約が入っており、主催事業ではこれまでとは違った視点で楽しめるものを計画しています。エコミュージアムセンターの事業運営に協力してくださっている方々とともに、さまざまな機会を通じて多くの人びとに楽しんでいただけるセンターづくりに励んでいきたいと思ひます。

表3 普及事業

事業名	参加者数
川の生き物探検隊	14
地層観察教室（日帰り）	34
森の学校ジュニア 2007 夏	23
恐竜講演会	39
地層観察教室（1泊）	33
自然誌講演会	30
森の学校 2007 秋	18
パンケ原生保存林の不思議をのぞこう	4
薄荷蒸留再現	-
ロックアート教室	27
そば打ち教室	14
昔のおやつを食べよう	38
オリジナルカレンダーをつくろう	6
冬の自然観察会	6
森の学校 2008 冬	7
恐竜のツメレプリカをつくろう	14
森の学校ジュニア 2008 冬	6
合計（17事業）	313



表4 特別展・企画展

事業名	観覧者数
GW 特別事業	464
特別展「アンモナイトの技芸と学術」	2,228
合計	2,692



特別展中央小全校児童見学；「え！こんな変な形のやつもアンモナイト！？」地域講師の方の説明に子どもたちは目を輝かせました。



←地層観察教室；親子で協力して、切り立った崖に挑みました。

# 平成20年度の工コの特展・普及事業

夏の特別展は「恐竜時代の中川2～恐竜時代の生き物を探る」をテーマにして7月下旬から開催予定です。苫小牧市博物館所蔵のスピノサウルスの下あご化石（本物です！）などの恐竜化石のほか顕微鏡レベルでの恐竜化石についての展示・解説をします。秋には、今年で15回目となる「斎藤茂吉記念短歌フェスティバル」にあわせて、秋の歴史写真展は「茂吉がみた中川」と題して、町民のみなさんから提供された昭和初期の中川の写真をもとに展示・解説いたします。

また昨年同様、ふるさと中川の自然・歴史・産業などに触れる事業を開催していきます。例えば、北海道遺産の天塩川や旧河川をボートで探検しながら水辺の生き物を探す「天塩川探検」（6月下旬予定）をはじめとして、「チャレンジするワクワク感」と「ふるさとを学ぶ」を主体とした事業を開催していきます。

詳しい内容や募集などは改めてお知らせしていきます。



4月の行事						
日	月	火	水	木	金	土
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			
5月の行事						
黒ぬりのところが休館日				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## 4-5月の主な行事予定

- ・5月3日（土・祝）  
～5月6日（火・休）  
ゴールデンウィーク特別事業  
「化石アイテムをつくろう！」
- ・4月23（水）～25日（金）  
豊富高校1年生宿泊研修
- ・5月29（木）～30日（金）  
頓別小学校5、6年生宿泊研修

つくしが顔をだしてきましたね。つくしは先端の穂の部分（孢子穂）と茎のはかまの部分をとって水に数分さらします。長くさらすと、つくしの苦味がなくなります。油で炒め、砂糖・塩・しょう油、そして水を少し加え、沸騰させ、溶き卵をいれたら、つくしの卵とじの出来上がりです。甘辛く味付けした「つくしの卵とじ」は飯の友として、または常温の日本酒とよく合います。（疋）。